

永続的所有を表す叙述表現に関する英語と日本語の比較： Stassen の類型論研究に基づいて

松 藤 薫 子

日本獣医生命科学大学 英語学教室

要 約 本論文では、人間が譲渡可能な物体を自分のものとして永続的に持つという意味を、文という形で表す所有叙述表現を研究対象とする。類型論研究 Stassen (2009) を概観し、この枠組みに基づき英語と日本語の所有叙述表現を分析・考察した。その結果、以下の点を明らかにした。英語と日本語の相違点は (1) 類型論上、永続的譲渡可能所有の意味を、英語は HAVE 構文 (have タイプを用いた他動詞構文) で、日本語は LOC 構文 (場所を表す自動詞構文)、TOP 構文 (話題を表す自動詞構文) で表す。(2) その構文で使われる動詞に関して、主に、英語では have、日本語では、「いる/ある」が使われる。LOC/TOP 構文では使われないが他動詞「持っている」も使われる。(3) 所有文と存在文の交替に関して、a) 所有文に場所表現を加えると存在を表す、b) 存在文に所有表現を加えると所有を表すという方法がある。日本語は a) b) 両方可、英語は a) は可能で、b) は使えない。共通点としては、(i) 文中に生起する所有者表現と所有物表現の順序は、前者が先、後者が後である。(ii) 所有物の語彙の意味が文全体の意味を決める点である。

キーワード：所有叙述表現、英語、日本語

日獣生大研報 61, 60-70, 2012.

1. はじめに

所有という概念は普遍的であると考えられる。Stassen (2009: 16) は、所有者であること (ownership) は通文化的に普遍的であるとする。窃盗という概念は、独占所有権という概念を前提とし、どの社会にも意味があるからである。

所有表現は、どの言語にも存在しうると言われている (Heine 1997: 1)。所有表現は形式的にも意味的にも複雑である。所有表現にみられる「ジョン」や「私」のような具体的な所有者を総称して X、「車」や「ペン」のような具体的な所有物を総称して Y とする。例えば、英語には動詞 have を含む X has Y のような文の叙述所有表現、所有格標識 's を含む X's Y のような限定所有表現などがある (例: John has a car, John's car)。日本語には、「X は Y を持っている」、「X に (は) Y がある」、「X は Y をしている」、「X の Y」などがある (例: ジョンは車を持っている、ジョンに車がある、ジョンは青い目をしている、ジョンの車)。所有表現が表す意味は、Heine (1997: 33-35) によると、(1) のように 7 つ挙げられている。(1a) 物理的所有、(1b) 一時的所有、(1c) 永続的所有、(1d) 分離不可能所有、(1e) 抽象的所有、(1f) 無生物分離不可能所有、(1g) 無生物分離可能所有である。形式と意味の対応関係は、英語であれば、(1) のように、その 7 つの意

味をすべて have 構文で表すことができるが、日本語はそうではない。意味により所有表現を使い分けたり、ある意味を複数の構文で表したりする。(1d i u) のように、分離不可能な身体的所有は「X は Y をしている」のみで表し、(1c あ) (1c い) のように、永続的所有は複数の構文「X に (は) Y がある」、「X は Y を持っている」で表す。例文の頭についている * は文法的には問題がないが、文脈や常識などから考えて不自然に感じる文であることを示す。

(1) a. 物理的所有：言及時に、所有者と所有物が物理的 (空間に位置を占め、感覚的に知覚できるさま) に関係している。

i) I want to fill in this form; do you have a pen?

(例えば、受付にて)

あ) この申し込み用紙に記入したいのですが、ペンありますか？

い) * この申し込み用紙に記入したいのですが、ペン持っていますか？

う) * この申し込み用紙に記入したいのですが、ペンしていますか？

b. 一時的所有：所有者は短期間、所有物を自由に使用可能であるが、その所有権を主張できない。

i) I have a car that I use to go to the office but it belongs to Judy.

- あ) 私が会社に行く時に使う車があるが、その車はジョディのものだ。(解釈: 私のものではないが、私が使用できる車があり、それはジョディの所有物。)
- あ) 私のところに会社に行く時に使う車があるが、その車はジョディのものだ。(私が使用可能な車が私の敷地にあるが、それはジョディの所有物。)
- あ) *私に (は) 会社に行く時に使う車があるが、その車はジョディのものだ。(私の所有物に車があり、それをを使うが、それはジョディの所有物。常識的に車の所有者は一人なので不自然な文)
- い) *私は会社に行く時に使う車を持っているが、その車はジョディのものだ。(「車を持っている」は永続的所有に解釈される)
- う) *私は会社に行く時に使う車をしているが、その車はジョディのものだ。
- c. 永続的所有: 所有物は所有者の財産であり、一般に所有者は所有物に対して法的な所有権を持つ。
- i) Judy has a car but I use it all the time.
- あ) ジュディに (は) 車があるが、私がそれをいつも使っている。
- い) ジュディは車を持っているが、私がそれをいつも使っている。
- う) *ジュディは車をしているが、私がそれをいつも使っている。
- d. 分離不可能所有: 所有物は、身体部分や親族のように一般に所有者から分離できないものである。
- i) I have blue eyes.
- i あ) *私に青い目がある。
- i い) *私は青い目を持っている。
- i う) 私は青い目をしている。
- ii) I have a sister.
- ii あ) 私に (は) 姉が いる/ある。
- ii い) *私は姉を持っている。
- ii う) *私は姉をしている。
- e. 抽象的所有: 所有物は病気・感覚・心理状況など、目に見えない無形概念である。
- i) I have no time.
- あ) 私に (は) 時間がない。
- い) *私は時間を持っていない。
- う) *私は時間をしていない。
- f. 無生物分離不可能所有: 所有者が無生物であり、所有者と所有物が分離不可能である。
- i) My study has a window.
- あ) 私の書斎には窓がある。
- い) *私の書斎は窓を持っている。
- う) *私の書斎は窓をしている。
- g. 無生物分離可能所有: 所有者が無生物で、所有物は所有者から分離可能である。

- i) My study has a lot of useless books in it.
- あ) 私の書斎には、役に立たない本がたくさんある。
- い) *私の書斎はたくさん役立たずの本を持っている。
- う) *私の書斎はたくさん役立たずの本をしている。

((1) の英文は Heine1997: 33-35 から、それに相当する日本語文は筆者による)

本論文では、(1c) のような、人間がある物体を自分のものとして永続的に持つという意味を文という形で表す所有叙述表現を扱う。その表現形には言語間変異が確認され、日本語と英語では異なった特徴がみられる。本研究では、所有叙述表現の類型論研究 Stassen (2009) を概観し、この枠組みに基づき英語と日本語の所有叙述表現を分析・考察する。

2. 先行研究: Stassen (2009)

Stassen (2009) は、形態統語論的分析による類型論的枠組みを使って、地域的・起源的・類型的多様性を考慮した 420 もの言語の所有叙述表現を比較分析している。

- (2) John has a car.
- (3) a. The car belongs to John.
b. Mary saw John's car.
c. John has a blue car. c'. John has two cars.

Stassen (2009: 35) は (2) に見られるような、話題である所有者人間 (John) が、修飾語のない不定の譲渡可能な所有物 (a car) を永続的に支配するという肯定的な意味を表す叙述表現を対象としている。以下、このような意味を永続的譲渡可能所有と呼ぶ。対象外となるのは、(3a) のような所有者表現と所有物表現が現れる順序が (2) と逆であったり、所有物が the car のような定所有表現となっているもの、(3b) の中の John's car のような限定所有表現、(3c, c') の所有物の属性や数量を表す blue や two のような修飾語を含むものである。

分析の結果、Stassen (2009) は、注目した所有叙述表現に言語間変異として 4 つの類型があることを確認した。その 4 つとは、場所所有形 (the locative possessive 以下、LOC 構文)、with 所有形 (the 'with' possessive 以下、WITH 構文)、話題所有形 (the topic possessive 以下、TOP 構文)、have 所有形 (the 'have' possessive 以下、HAVE 構文) である。これらが、異なった文法特性 2 つ (the deranking/balancing parameter と the share/split parameter) に相関していることを明らかにし、(4) のような普遍的特性と図 1 のようなフローチャートを示した。

- (4) THE UNIVERSALS OF PREDICATIVE POSSESSION ENCODING
- a. If a language has a Locational Possessive, it has deranking of simultaneous DS-sequences.
- b. If a language has a With-Possessive, it has deranking of simultaneous DS-sequences.

- c. If a language has a (standard) Topic Possessive, it has balanced simultaneous DS-sequences, and it is a split-language.
- d. If a language has a Have-Possessive, it has balanced simultaneous DS-sequences, and it is a share-language.
(Stassen 2009 : 274 (52))

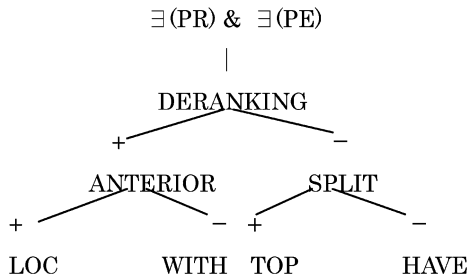


Figure 1. The flow chart of predicative possession encoding
(Stassen 2009 : 723)

所有叙述構文の意味を表す基底構造 (underlying structure) が \exists (PR) & \exists (PE) または [PR BE][PE BE] として表されている。PR は possessor の省略形で所有者を表し, PE は possessee の省略形で所有物を表す。その基底構造は, 「所有者が存在する」という出来事と「所有物が存在する」という出来事の 2 つがあり, その 2 つが同時に同じ場所にあることを示している。さらに, PR を表す表現が PE を表す表現より先であるという普遍的な語順があることが指摘されている。これは情報構造の観点から, 既知情報 (話題情報, 背景情報) が新情報より前に順序づけられることによる。

(4) で使われている DS (different subjects) とは, 出来事 2 つが統語的に節 2 つで表される場合, 節 2 つのそれぞれの主語が異なっていることをいう。(5) の英語の例文には DS がみられ, 等位接続されている 2 つの節に, 主語として, 一方は John と他方は Mary が使われている。
(5) John was late and Mary was worried.

deranking とは, 節 2 つにそれぞれ使われている動詞に関して, 一方の動詞の形がもう一方の動詞の形と異なっていること, または, 従属節の中の動詞の形が主節の動詞の形と異なっていることをいう。balancing とは, ある節と もう一つの節にある動詞の形, または, 従属文と主文の動詞の形が同じことをいう。(6) のように, 様々な言語の例文を引用する場合, (番号) の後に, 言語名 (語族名, 語派名) を示す。

(6) DAFLA (Sino-Tibetan, Tibeto-Burman)
Lok nyi ak da-tla ka anyiga da-tleya
one man one be-CONVPAST son two be-3DUPAST
'A man had two sons' (lit '(There) being a man, there were two sons')

(Grierson 1909 : 603, Stassen 2009 : 707 (5))

(7) IXTLAN ZAPOTEC (Oto-Manguean, Zapotecan)
Lèyètsi kyá ðoá tù jrù-dí ðoá tù βèkù
Village mine exist one gentleman exist one dog

tò kyè
small of.him

'In my village there was a gentleman who had a little dog' ('lit: '(In) my village, there was a gentleman, there was a small dog of his')

(De Angulo and Freeland 1935 : 123, Stassen 2009 : 711 (11))

例えば, (6) が deranking を示す例文である。[PR BE][PE BE] が基底構造であり, 2 つの節の be 動詞のうち, 最初の節の be 動詞に converb が付与している点が 2 番目の be 動詞とは異なっている。converb とは動詞由来述語 (deverbalized predicates) であり, 例えば, 述語に接辞 (affix) を付与して副詞的な情報を与える語, 動詞的副詞 (verbal adverb), 動名詞 (gerund), 中間動詞 (medial verb), 不変化詞 (particle), 副詞的不変化詞 (adverbial particle) と呼ばれるものがある。(7) は balancing を示す例である。2 つの節にある動詞 ðoá 'exist' が同じ形である。

deranking 言語は, どちらの節の動詞を下降させて所有叙述表現を生成させるのかということによって二分される。つまり deranking 言語には最初の節の動詞を下降させる言語 (前方動詞下降言語: anterior deranking languages) と 2 番目の節の動詞を下降させる言語 (後方動詞下降言語: posterior deranking languages) がある。それぞれの基底構造は, (8) になる。DER は deranking の操作が適用されたことを示す。

(8) a. Anterior deranking languages :

[PR BE DER][PE BE]

b. Posterior deranking languages :

[PR BE][PE BE DER] (Stassen 2009 : 706-7)

上記 (6) で見た言語を除く deranking 言語では, 所有叙述表現を 2 つの節ではなく, 1 つの節で表す。2 つの節を 1 つにするメカニズムとして (9) が働くことと仮定されている。

(9) (a) ellipsis of the *be*-predicate in the deranked clause, and

(b) 'inheritance' of the marker of the deranked clause by the subject of that clause, in the form of an oblique marker (Stassen 2009 : 707)

(10) a. Anterior deranking languages :

PR OBL PR BE

b. Posterior deranking languages :

PR BE PE OBL (Stassen 2009 : 708)

前方動詞下降言語では, 基底構造 [PR BE][PE BE] の前の節の BE 動詞が削除され, 前節の動詞が下降したという標識が, その主語に斜格標識がつくことで継承され, (10a) のようになる。これは LOC 構文に使われ, (11) がその例文である。一人称単数の所有者に場所格 (LOC) が付与され, 所有物, be 動詞が続く。後方動詞下降言語は [PR

BE][PE BE]の構造に(9)が働いた結果(10b)の構造を持ち WITH 構文に使われ、(12)がその例文である。後節の動詞が下降したという標識として na 'with' が所有物の前に置かれている。

(11) WRITTEN MONGOLIAN (Altaic, Mongolian)

Na-dur morin bui
1SG-LOC horse be.3SG.PRES
'I have a horse'

(Poppe 1954 : 147, Stassen 2009 : 708 (7))

(12) SANGO (Niger-Kordofanian, Ubangian)

Lo ɛkɛ na bɔngɔ
he be with garment
'He has a garment'

(Samarin 1966 : 95, Stassen 2009 : 708 (9))

さらに、derankingの操作が前方、後方のどちらに適用されるかは、語順によって予測可能であることが(13)のような普遍的傾向として規定される。前方動詞下降言語では、LOC構文が主に使われ、語順がSOVである。後方動詞下降言語では、WITH構文が主に使われ、SVOまたはVSOである。

(13) TENDENCIES IN THE DIRECTIONALITY OF DERANKING

(a) Languages with anterior deranking tend to have verb-final word order (SOV)

(b) Languages with posterior deranking tend to have verb-medial or verb-initial word order (SVO/VSO)

(Stassen 1985 : 88-90, Stassen 2009 : 709 (10))

split/share パラメータに関しては、自動詞を使った叙述関係を表す構文に、場所を表す叙述構文と部類・階級・職業などの class-membership を表す名詞で表す叙述構文があり、自動詞の表し方に言語間変異があることを Stassen (1997) は確認した。2つの構文に使われている自動詞が同じであるものが share 言語と呼ばれ、2つの構文に使われている自動詞が異なるものが split 言語と呼ばれる。(14)が share 言語の例であり、民族を表す名詞構文と場所を表す存在構文において、使われている動詞が同じ動詞 *yu* である。(15)が split 言語の例であり、性質を表す名詞構文と場所を表す存在構文につかわれている動詞が *nā* と *'allā* で異なっている。

(14) YAVAPAI (Yuman)

a. Maria hayko-v-č yu-m
M. Anglo-DEM-SUBJ be-ASP
'Maria is an Anglo'

(Kendall 1976 : 157, Stassen 2009 : 266 (30a))

b. Cnapuk-č miyul-l yu-m
ant-SUBJ sugar-in be-ASP

'There is an ant in the sugar/The ant is in the sugar'

(Kendall 1976 : 25, Stassen 2009 : 266 (30b))

(15) AMHARIC (Afro-Asiatic, South Semitic)

a. Lämma ɾeru tāmari nā-w
L. good pupil COP-3SG.M.PRES

'Lämma is good pupil'

(Hartmann 1980 : 292, Stassen 2009 : 266 (32a))

b. l.: ġġi-tu 'əgābaya 'allā-čč
at.market-the girl be-3SG.F.PRES

'The girl is in the market'

(Hartmann 1980 : 297, Stassen 2009 : 266 (32b))

HAVE 構文に関しては、(16)のような普遍的特徴が示されている。HAVE 構文を使う言語は、一時的な所有を表す時でも HAVE 構文を使う。これは、HAVE 構文が表す意味範囲からみた言語タイプ(17)に基づいている。

(16) THE UNIVERSAL OF HAVE-POSSESSIVES

If a language employs a Have-Possessive for the encoding of alienable possession, it will employ a Have-Possessive for the encoding of temporary possession.

(Stassen 2009 : 721 (53))

(17) DISTRIBUTION OF HAVE-POSSESSIVES OVER TEMPORARY AND ALIENABLE POSSESSION

	A	B	C	*D
Temporary	-	+	+	-
Alienable	-	-	+	+

(Stassen 2009 : 64 (86))

(17)は、世界言語において HAVE 構文がある場合に、それが一時的所有と譲渡可能な所有を表しうるかに関して、4つの論理的可能性(A: どちらの意味も表さない、B: 一時的所有は表すが、譲渡可能な所有は表さない、C: 一時的所有も譲渡可能な所有も表す、D: 譲渡可能な所有は表すが、一時的所有は表さない)があるが、Dのような状況は経験的にありそうにないことを示している。基本的な意味が一時的所有で、その拡張が譲渡可能な所有であるといえる。Stassen (2009 : 63)は、HAVE 構文で使われる HAVE 動詞は、「獲得する」「入手する」などの具体的な行為を表す動詞 (get, grab, seize, take, obtain, hold, carry, rule) が、意味の漂泊化 (semantic bleaching) のプロセスを経て生じたものであると指摘している (Givón 1984 : 103, Heine 1997 : 47-48)。

以下、(4)の一般化の具体例を見ていく。(4a)とは、ある言語に LOC 構文があれば、2つの出来事が同時に起り、それを表す2つの節に含まれる2つの主語が異なっている場合、一方の節の動詞が下降する deranking の操作があることを意味する。この一般化の証拠は、LOC 構文は、分析対象 420 言語のうち 133 言語でみられ、LOC 構文とともに deranking がみられるのは 129 言語であることによる。その一例が(18)である。(18)は LOC 構文の例であり、基底構造の2つの節 [PR BE][PE BE]のうち、前節の *be* が削除され、与格 (DAT) が主語に付与されている。(19)は deranking の例である。いくつかの事が話されていたという出来事と彼が立っていたという出来事が同時に起り、主語が異なり、動詞由来述語の分詞 PCP (participle) が動詞 'say' に相当する語に付与されていることから、前節の動詞が下降している。

- (18) ANCIENT GREEK (Indo-European, Hellenic)
 Hèmin oinos estin
 1PL.DAT wine.NOM be.3SG.PRES
 'We have wine'
 (Nuchelmans 1985 : 102, Stassen 2009 : 278 (2))
- (19) Toutôn legomenôn
 this.GEN.PL.NEUT say.PCP.PRES.PASS.GEN.PL.NEUT
 anestè
 rise.3SG.AOR
 'While these things were being said, he stood up'
 (Schwartz and Slijper 1936 : 155, Stassen 2009 : 279 (7))
 (4b) とは、ある言語に WITH 構文があれば、2つの出来事が同時に起り、それを表す2つの節に含まれる2つの主語が異なっている場合、一方の節の動詞が下降する deranking の操作があることを意味する。この一般化の証拠は、WITH 構文は、420 言語のうち 115 言語でみられ、WITH 構文とともに deranking がみられるのは 113 言語であることによる。その一例が (20) である。(20) は WITH 構文の例であり、基底構造の2つの節のうち、後節の be が削除され、副詞的役割をする with が後節の主語 (所有物) に付与されている。(21) は deranking の例である。私達が去ろうとしている出来事と彼が水を持って来るといふ出来事が同時に起っていて、主語が異なり、動詞由来述語の動詞の名詞 (verbal noun) が動詞 'go' に相当する語に付与されていることから、前節の動詞が下降している。
- (20) MBAY (Nilo-Saharan, West Central Sudanic)
 Ngôn ì ké kiyá
 child is with knife
 'The child has a knife'
 (Keegan 1997 : 77, Stassen 2009 : 421 (223))
- (21) Tà kàw-já ßèe-é à, à ùn màñ
 upon go.VN-our home-to PRT he.will take water
 dée-ñ dée-n
 bring-it bring-it
 'Whenever we are about to leave he is sure to bring some water'
 (Keegan 1997 : 152, Stassen 2009 : 421 (224))
 (4c) とは、ある言語に TOP 構文があれば、2つの出来事が同時に起り、それを表す2つの節に含まれる2つの主語が異なり、2つの節に使われている動詞が同じ形式の文があり、その言語は split 言語に属することを意味する。この一般化の証拠は、TOP 構文は、420 言語のうち 135 言語でみられ、TOP 構文とともに balancing と split がみられるのは 135 言語であることによる。その一例が (22) である。(22) は TOP 構文の例である。(23) は balancing の例である。彼が行くといふ出来事と私が続くといふ出来事が同時に起り、出来事を表す2つの節の主語が異なるが、それに使われている動詞の形は同じである。(24) は split 言語の例であり、(24a) の名詞的述語、(24b)

の場所述語で使われている動詞が異なっている。前者では音声のないゼロの動詞が使われると仮定されており、後者では be 動詞が使われている。

- (22) TOBA BATAK (Austronesian, West Indonesian)
 Ia bòru-na í adÒN dO sada mutiha
 TOP daughter-her DEM exist AFFIRM one pearl
 'Her daughter had on/a pearl'
 (Percival 1981 : 94, Stassen 2009 : 455 (65a))
- (23) LáO dO áu, mòO rÓ ib ána
 go AFFIRM I when come he
 'I will go, when he has come'
 (Nababan 1982 : 82, Stassen 2009 : 456 (69b))
- (24) a. ParÉddE (dO) áu
 singer (AFFIRM) I
 'I am a singer'
 (Nababan 1982 : 114, Stassen 2009 : 456 (70a))
 b. AdÓŋ háu humalian jàbu í
 exist tree around house DEM
 'There are trees around the house'
 (Nababan 1982 : 81, Stassen 2009 : 456 (70b))
 (4d) とは、ある言語に HAVE 構文があれば、2つの出来事が同時に起り、それを表す2つの節に含まれる2つの主語が異なる場合、2つの節に使われている動詞が同じ形式の文があり、その言語は share 言語に属することを意味する。この一般化の証拠は、HAVE 構文は、420 言語のうち 143 言語でみられ、HAVE 構文とともに balancing と share がみられるのは 134 言語であることによる。その一例が (25) である。(25) は HAVE 構文の例である。(26) は balancing の例である。彼が来たといふ出来事と私が彼に言ったといふ出来事が同時に起り、出来事を表す2つの節の主語が異なるが、それに使われている動詞の形は同じである。(27) は share 言語の例であり、(27a) の名詞的述語、(27b) の場所述語で使われている動詞が、同じ動詞になっている ((27) では、主語の人称に be 動詞が呼応している。(27a) では 2 人称主語のため nekk, (27b) では 3 人称主語のため neke)。
- (25) WOLOF (Neger-Kordofanian, West Atlantic)
 Am nga fas
 have 2SG horse
 'You have a horse'
 (Diouf and Yaguello 1991 : 46, Stassen 2009 : 679 (385))
- (26) Nyeu-on na (té) wakh-on nañ ko
 come-PAST 3SG (and) tell-PAST 1SG 3SG.OBJ
 'He came and I told (it) to him'
 (Rambaud 1903 : 51, Stassen 2009 : 679 (389a))
- (27) a. Nga nekk gan
 2SG be guest/stranger
 'You are a guest/stranger'
 (Ngom 2003 : 107, Stassen 2009 : 681 (393a))

- b. Neke na ker
be 3SG house
'He is at home'

(Rambaud 1903 : 73, Stassen 2009 : 681 (393b))

以上、所有叙述表現の4タイプがどのようなメカニズムで生じるかを見てきた。以下、英語と日本語がどのタイプに属するのか、どのような特徴がみられるのかを考察する。

3. 英語の所有叙述表現

Stassen (2009) によると、英語は HAVE 構文が使われる。また、英語は balancing 言語であり、share 言語に属する。(28) のように have 動詞が使われる場合、文中に生起する所有者を表す表現と所有物を表す表現の順序は、所有者が先で所有物が後である。balancing 言語であることを示す例は (29a, b) であり、前節と後節にある be 動詞の形が同じ was である。(29c) のように異なる形が使われている場合 (deranked encoding) があるが、主要な形としては同じ形 (balanced encoding) が使われ、balancing 言語とみなされる。share 言語とわかる例は (30) であり、(30a) の職業を表す名詞的述語、(30b) の場所述語で使われている動詞が同じ動詞 is になっている。

(28) ENGLISH (Indo-European, West Germanic)

John has a motorcycle. (Stassen 2009 : 573 (39))

(29) a. John was late and Mary was worried.

b. When John was late, Mary was worried.

c. (With) John being late, Mary was worried.

(Stassen 2009 : 255 (3))

(30) a. Fans is a linguist.

b. Masha is in Stockholm. (Stassen 2009 : 573 (41))

Stassen (2009) は、英語が HAVE 構文に決まる要因を以下のように説明している。英語は balancing 言語であるため、場所述語 NP is PP と身分を表す名詞述語 NP is NP で使われる動詞がともに be 動詞である。永続的譲渡可能所有も be 動詞を使った構文で表すと、その構文は多義性を持つことになる。この多義性を回避するために、英語はその構文を使うのをやめ、一時的な所有を表す他動詞構文を利用する。他動詞構文が一時的な所有だけでなく、永続的譲渡可能所有も表すようになる。

英語の所有叙述構文の特徴について、以下4点に関して、考察を加える。

3.1 所有を表す動詞 : have, own

所有を表す動詞には、have, own などがある。1節の (1) のように、いろいろな意味関係を have で表すが、(1c) のような永続的譲渡可能所有の have は (31a) のように own に置き換えが可能だと言われる (Stassen 2009 : 11)。

(31) a. John has/owns a motorcycle.

b. Frank has/*owns a sister.

c. A spider has/*owns six legs.

d. Mandy has/*owns a basket on her lap.

e. Bill has/*owns the flu. (Stassen 2009 : 11)

しかし、永続的譲渡可能所有を表す文の have に対してどの文も own で完全に置き換えることはできない。own には使用範囲にきつい制限がある。own の目的語は、売買などの合法的な手段で取得した所有物で、しかも価値を持つものに限られるからである。典型的な例は (32a) のような車である。(32b) のように銀行口座は分離可能な取得物であるが、口座自体には価値がなく、簡単に譲り渡せるような物理的な財産ではないため own は使えない (Taylor 1996 : 341-2)。

(32) a. John has/owns a big car.

b. I don't have/*own an account with this bank.

3.2 所有の意味と構文の関係

本論文で扱っている永続的譲渡可能所有は (33a) のように X has Y 構文で表される。このような所有の意味と構文は1対1に対応しない。その構文は、(1) でみたように物理的所有、一時的所有などを表すし、さらに、(33b, c) のように単に空間関係が規定されているもの (be 動詞を用いた存在文で言い換え可能なもの (33b', c')) も表す。(33b, c) で重要な点は、所有構文に、任意に場所前置詞句を付けることができるという点である。前置詞句が空間関係を規定しているため、have 動詞が使われているが、文全体としては所有ではなく空間的位置を表していると解釈できる。

(33) a. He has a watch.

b. He has his watch on his right hand.

b'. His watch is on his right hand.

c. He has a watch on his right hand.

c'. There is a watch on his right hand.

つまり、X has Y は永続的譲渡可能所有の他に、様々な所有関係と、空間関係を表す。

3.3 所有物の意味と全体の意味との関係

基本的には、(34) のように、所有者が比較的長い期間に所有・支配できるような所有物なら、なんでも、X has Y が使える。

(34) John has {a motorcycle/ a boat/ a building/ a car/ a cell-phone/a shop/a company/a dictionary/a property/a house/a home/a jet/a gun/a weapon/a sword/ a DVD/a cottage/ (a lot of) money/a land/ a computer/ a farm/ a cow}.

しかし、所有物の語彙的意味が、全体の意味を決める上で重要な働きをする。1つは、所有物 Y が自律名詞 (その指示対象が単独で存在し、それだけで自律的な概念を表す名詞) で、それが文化的な影響を受ける場合である。文化的な影響を受けた結果、X と Y の間の所有関係が弱ければ、一時的な携帯所有の意味になりやすいと考えられる。その関係が強ければ、永続的な所有な意味になりやすい。

(35) John has {a stone/ a pen/ a coin/ a dog/ a house}.

(35) の小石は、一般に、自然に公園などにあるもので、人との所有関係は薄い。従って、文脈がなければ、一時的

な携帯所有の意味を表しやすい。一方 (35) の家は、人間が長期間借りたり、買ったりして住むものであり、所有関係が強い。人との所有関係の度合いは、(35) の { } の左端が一番弱く、右に行くに従っては徐々に強くなり、右端が一番強いと思われる。

2 つめに、所有物 Y が相対名詞である場合、X と Y の関係が語用論的推論 (使用される状況) により決められる場合がある。相対名詞とは、その名詞単独では意味が不完全でそれと関係する概念の相対的關係で理解しなければならない名詞で、例えば、肖像画、作品などである。「これは肖像画です」という文において、誰が、誰を描いた絵かの情報が必要である。Y に相対名詞が使われると、所有関係以外の意味を表す場合がある。

(36) a. Elizabeth II has many portraits.

b. J.K. Rowling has many works.

(36a) はエリザベス 2 世がだれかを描いた絵をたくさん所有していることも、エリザベス 2 世を描いた肖像画がたくさんあることも表しうる。(36b) は、(ハリリーポッターの作者) J.K. ローリングが本や写真や絵画など作品をたくさん所有していることも、その作家が書いた本がたくさんあることも表す。

3.4 所有文と存在文の交替

X has Y が存在を表すかに関しては、3.2 節の (33) でみたように、X has Y に場所表現を加えると存在を表し、その意味を存在文で表すことが可能である。逆に、存在文が永続的譲渡可能所有を表すことはできないが、(37) のように無生物譲渡不可能所有は表すことができる。単なる位置関係を表しているのではなく、場所に付随する所有関係を表している。

(37) a. There are five bedrooms in this house.

(=This house has five bedrooms.)

b. There is no error in this proof.

(=This proof has no error.)

(岸本・影山 2011 : 260)

4. 日本語の所有叙述表現

Stassen (2009) によると、日本語には主要タイプとして LOC 構文、副次的タイプとして TOP 構文がある。主要タイプ LOC 構文である場合は、前方動詞下降と 2 つの節でみられる deranking という特徴と関連がある。(38) は LOC 構文の例であり、前方動詞下降の特徴がみられる。前節の動詞が下降した (前節の BE が消された) という標識として、所有者に与格 (DAT) が付与されている。その後、所有物と be 動詞が続いている。文中に現れる所有者を表す表現と所有物を表す表現の順序は、所有者が先、所有物が後である。

(38) JAPANESE (Altaic, Japanese)

Ootoo ni naifu ga aru
younger.brother DAT knife SUBJ exist. PRES
'Young brother has a knife'

(Martin 1975 : 649, Stassen 2009 : 302 (98))

(39) は deranking の例である。2 つの出来事が 2 つの節で表され、2 つの節内の主語が異なり、前節の動詞が下降している。前節の動詞に、動詞由来述語で副詞的情報を与える coverb が付与されていることからわかる。

(39) a. Taroo ga Amerika ni ik-i, Hanako ga
T. NOM America to go-CONV. H. NOM
Furansu ni it-ta
France to go-PAST

'While Taroo went to America, Hanako went to France'

(Kuno 1978 : 124, Stassen 2009 : 306 (110a))

b. John wa piano ga joozu-de,

J. top piano NOM be.good-CONV

Mary wa guitar ga jouzu-da.

M. TOP guitar NOM be.good-PRES

'John is good at the piano and Mary is good at the guitar'

(Hinds 1986 : 85, Stassen 2009 : 306 (110b))

副次タイプ TOP 構文である場合は、balancing と spilit という特徴と関連がある。(40) は TOP 構文の例である。「弟が」「あの人は」が話題を表している。文中でみられる所有者を表す表現と所有物を表す表現の順序は、LOC 構文と同様に、所有者が先、所有物が後である。

(40) a. Ootoo ga naifu ga aru
younger.brother TOP knifef SUBJ exist. PRES

'Young brother has a knife'

(Martin 1975 : 647, Stassen 2009 : 433 (3a))

b. Ano hito wa kane ga tak'san aru

this man TOP money SUBJ much exist. PRES

'This man has a lot of money'

(Plaut 1904 : 259, Stassen 2009 : 433 (3b))

(41) は balancing の例である。2 つの出来事が同時に起り、出来事を表す 2 つの節の主語が異なるが、それに使われている動詞の形は同じである (前後の節ともに (41a) では「行きます」、(41b) では「行った」が使われている)。(42) は split の例であり、(42a) の名詞的述語、(42b) の場所述語で使われている動詞が異なっており、前者で「だ」、後者で「ある」が使われている。

(41) a. Mariko wa Tookyoo e ikimasu ga, Junko wa
M. TOP T. to go.PRES PRT J. TOP
Koobe e ikimasu
K. to go.PRES

'Mariko will go to Tokyo, (and/but) Junko will go to Kobe'

(Hinds 1986 : 89, Stassen 2009 : 434 (5a))

b. Taroo ga Amerika ni itta shi, Hanako ga

T. NOM America to go.PAST and H. NOM

Furansu ni itta

France to go.PAST

'While Taroo went to America, Hanako went to France'

(Kuno 1978 : 121, Stassen 2009 : 435 (5b))

- (42) a. John wa usotuki da
 J. TOP liar COP
 'John is a liar'
 (Makino 1968 : 15, Stassen 2009 : 437 (9a))
- b. Tukue no ue ni hon ga aru
 desk GEN top LOC book SUB be.there.NONPAST
 'There is a book on the desk'
 (Makino 1968 : 1, Stassen 2009 : 437 (9b))

Stassen (2009) に基づくと、日本語では、主要タイプ LOC 構文、副次タイプ TOP 構文に決まるためには、次のような特徴がある。両者とも意味を表す基底構造として ㊦ (PR) & ㊦ (PE) または [PR BE][PE BE] (「所有者が存在する」という出来事と「所有物が存在する」という出来事の 2 つがあり、その 2 つが同時に同じ場所にあること) が仮定されている。2 つの節において動詞が deranking か balancing かに関しては、頻繁にみられる deranking が 1 次的、balancing が 2 次的であるとみなされる。deranking で所有構文を生成するとき、最初の節の動詞が下降するため、LOC 構文になる。balancing の場合は、自動詞を使った叙述構文において split か share かをみると、身分などを表す名詞述語と場所述語で違った動詞を使うことから split 言語なり、TOP 構文と決まる。

「持っている」に関しては、日本語が share 言語にならないため HAVE 構文として扱われない。「持っている」は他動詞で動作所有動詞がもとにあり、意味を表す基底構造としては、[AGENT (動作主) V PATIENT (被動作主)] があり、意味漂白化により、状態所有動詞としても使われるようになったと考えられる。

日本語の所有叙述構文でみられる以下 4 点に関して、考察を加える。

4.1 所有を表す動詞：ある、いる、持っている

所有を表す動詞には、「ある」「いる」「持っている」などがある。(43) は、所有物を人間、動物、無生物に 3 分し、どの動詞が使えるかを示したものである。(43) の結果を導く具体例が (44)–(46) である。

(43)	人間	動物	無生物
ある	o	*	o
いる	o	o	*
持っている	*	*	o

- (44) a. ジョンに使用人がいる。
 b. *ジョンに犬がある。
 c. ジョンに車がある。
- (45) a. ジョンに使用人がいる。
 b. ジョンに犬がいる。
 c. *ジョンに車がいる。
- (46) a. ジョンが使用人を *持っている / 雇っている。|。
 b. ジョンが犬を *持っている / 飼っている |。
 c. ジョンが車を持っている。

「ある」が所有を表す場合 (44a, b) のように人間と動物を区別している。「いる」や「持っている」は人間と動物

物を区別しない ((44a) (45a) に関して、所有される人に修飾表現がある方が自然に聞こえるようである。例：…私たちに道を訊ねた女のひとがあったが… (井上 2012 : 101)、ジョンには気の利いた使用人がいる)。存在文の場合と比較すると、(47) のように、「ある」は人間と動物を区別せず、使えないし、「いる」は区別せず使える (角田 2010 : 151)。

- (47) a. 家の前に *使用人 / *馬| がある。
 b. 家の前に |使用人 / 馬| がいる。
 「ある」を使う所有構文で人間と動物を区別する点が、(同じ動詞で同じ形式で近い意味を持つ) 存在構文と所有構文を区別する理由の 1 つであると考えられる。

4.2 所有の意味と構文の関係

永続的譲渡可能所有は上記でみたように、「X に Y が |ある / いる|」「X |は / が / には| Y が |ある / いる|」のような構文で表される。Stassen (2009) では言及されていないが、「X は Y を持っている」で表すことも可能である (例：彼は車を持っている)。

「X に Y が |ある / いる|」「X |は / が / には| Y が |ある / いる|」は、(1) でみたように、所有が具体的行為でない限り、これらの構文の使用が一般的である。英語の X has Y よりも表す意味範囲が狭いが、抽象的所有関係の意味 (1c あ) (1d ii あ) (1e あ, 1f あ, 1g あ) も空間的存在の意味 (48a) も表すことができる。所有の意味と存在の意味では、文中に現れる文法関係が異なると分析される (岸本 2005)。所有の意味では、「(所有者：主語) に (所有物：目的語) がある」となり、存在の意味では、「(場所) に (主語) がある」となる。(48a) のような存在構文で、場所を表す名詞に、人を指す名詞をいれるためには、(48a') のように「ところ」という形式名詞かより具体的な場所を指定する名詞を補う必要がある。これらがなく、(48b) のように所有の意味になる。存在を表す場合と所有を表す場合とでは二格名詞句に課される意味条件 (選択制限) が異なる。

- (48) a. 教室に子どもがいる。
 a'. 彼の |ところ / 研究室| に子どもがいる。
 b. 彼には子どもがいる。

「X は Y を持っている」は、物を所持しているという具体的行為が一般的であるが、(49) のように一時的 (携帯) 所有の場合も、永続的所有も表すことができる。

- (49) 彼は |小石 / お金 / 大金 / 車| を持っている。

4.3 所有物の意味と全体の意味との関係

英語の X has Y にみられた、所有物の語彙の意味が全体の意味を決める上で重要な働きをするという特徴が、日本語の「X |に / は| Y に |ある / いる|」「X が Y を持っている」にもみられる。1 つは、Y が自律名詞で、それが、文化的影響を受ける場合がある。例えば、X と Y の所有関係の強さ、X の Y に対する価値の大きさ、Y のサイズにより、文全体の意味が変化する。

- (50) 私に |小石 / ペン / 小銭 / 大金 / ボート / 車 / 家具

/店/農場}がある。

(51) 私は{小石/ペン/小銭/大金/ボート/車/家具
/店/農場}を持っている。

(52) a. あの子に、ペットがいる

b. あの子に、シラミがいる。b'. あの子の頭にシラミ
がいる。(岸本・影山 2011: 263-4)

(50) (51) の{ }の左端の小石のように所有関係が弱く、
価値がなく、小さいと一時的(携帯)所有関係を表しやす
く、右端の農場のように所有関係が強くと、価値があり、大
きいサイズであると永続的(永続)所有関係を表しやす
い。(52a,b) はいずれも所有を表す形式であるが、(52b) の「シラミ」
はペットにならず、人との所有関係が全く推論できないた
め、(52b, b') はともに存在を表す。

Y が例えば「銃」の場合は、所有関係に文化的背景が加
わり、英語と日本語で、文の意味が異なる。(53a) は銃所
持が可能な社会であるアメリカでは、永続的・一時的所有
の両方が表せる(イリノイ州と首都ワシントンは所有禁
止)。(53b) は、形式からは、永続的・一時的所有の両方
の意味が可能であるが、銃を所持できない法律のある日本
では、一時的(携帯)所有の意味を表しやす。そのため、
(53b) のかわりに、(53b') を使う傾向がある。

(53) a. John has a gun.

b. ジョンには銃がある。b'. ジョンは銃を持っている。

2 つめは、英語の場合と同様、所有物 Y が相対名詞であ
る場合、X と Y の関係が語用論的推論により決められる
場合がある。

(54) a. エリザベス 2 世には肖像画がたくさんある。

b. 村上春樹にはこの種の作品がたくさんある。

(岸本・影山 2011: 248)

(54a) はエリザベス 2 世を描いた肖像画がたくさんある
という意味が強いが、文脈により、エリザベス 2 世は誰か
を描いた肖像画をたくさん所有していることも表しうる。
(54b) は村上春樹がある特徴を持った作品をたくさん書
いていることを表しやすいが、文脈により、村上春樹が誰
かのある特徴を持った作品をたくさん所有していることも
示す。文脈とは、例えば、村上春樹が日本の妖怪に強い関
心があり、彼が妖怪の絵・書物・置物などの作品をたく
さん所有している場合である(判断の異なるものとして岸
本・影山(2011: 248) は、(54) の肖像画や作品は所有物
の意味を表さないと述べている)。

4.4 所有文と存在文の交替

表現を加えたり変えたりすることにより、所有文が存在
を表したり、存在文が所有を表すことが可能である。(55a)
は「X に Y がいる」の所有構文であるが、4.2 節でみたよ
うに、所有者(彼に)を場所表現(彼の部屋)に変えるこ
とにより、(55b) のように存在文になる。(56a) は、「X
が Y を持っている」の所有構文であるが、(56b) のよ
うに場所表現(全国に)を加えると、所有だけでなく存在も
表す。(56c) は存在文に所有表現(彼の別荘)を入れる
と、存在も所有も表す。

(55) a. 彼には子どもがいる。

b. 彼の部屋に子どもがいる。

(56) a. 彼が別荘を持っている。

b. 彼が全国に別荘を持っている。

c. 全国に彼の別荘がある。

5. 最後 に

本論文では、Stassen (2009) を概観し、言語類型論に
基づき英語と日本語の分析と考察を行った。その結果、以
下の点を明らかにした。英語と日本語の相違点として、1
つは、類型論上、永続的譲渡可能所有の意味を表すのに、
英語は、HAVE 構文を使用し、日本語は LOC 構文、TOP
構文を使用する。2 つめは、その構文で使われる動詞に関
して、主に、英語では have、日本語では、「いる/ある」、
が使われる。LOC 構文や TOP 構文では使われないが他動
詞「持っている」も使われる。これらは、永続的譲渡可能
所有以外に様々な意味を表し、have が一番使用範囲が広
く、次に「いる/ある」で、「持っている」は使用範囲が
狭い。3 つめは、所有文と存在文の交替に関して、a) 所
有文に場所表現を加えると存在を表す、b) 存在文に所有
表現を加えると所有を表すという方法がある。日本語は a)
b) 両方可能であるのに対し、英語は a) は可能であるが、
b) は使えない(譲渡不可能所有では使えるものがある)。

共通点としては、1 つは、文中に生起する所有者を表す
表現と所有物を表す表現の順序は、所有者が先、所有物が
後である。2 つめは、所意物の語彙の意味が文全体の意味
を決める点である。所有物が所有者と所有関係が強くと、
比較的価値があり、比較的サイズが大きいと永続的譲渡可
能な意味を表しやす。

以上で得られた、子どもが最終的に到達する大人の知識
に関する知見に関して、今後は、それを説明しうる言語理
論を検討する。次に言語獲得の観点から得られる知見を加
え、大人の知識でみられる普遍的特徴と言語間変異、子ど
もの獲得過程でみられる諸特徴のすべてを説明しうる言語
理論を検討し、所有叙述表現の獲得を可能にする仕組みを
解明したい。

例文注釈の略語一覧

AFFIRM 肯定, ASP アスペクト, CONV 動詞由来述語, COP
繫辞動詞, DAT 与格, DEM 指示詞, DU 両数, F 女性, GEN
属格, LOC 所格, M 男性, NEUT 中性, NOM 主格, NONPAST
非過去, OBJ 目的格, PASS 受動態, PAST 過去, PCP 分詞,
PL 複数, PRES 現在, PRT 不変化詞, SG 単数, SUBJ 主語,
TOP 話題, VN 動詞の名詞, - (ハイフン) 形態素境界

引用文献

- DE ANGULO, J. and J.S. FREELAND (1935) The Zapotecan
linguistic group. *International Journal of American
Linguistics* 8: 1-38, 111-130.
DIOUF, J.-L. and M. YAGUELLO (1991) *J'apprends le Wolof*.

- Paris : Karthala.
- GIVÓN, T. (1984) *Syntax : A Functional-Typological Introduction*, Volume 1. Amsterdam : John Benjamins
- GRIERSON, G.A. ed. (1909) *Linguistic Survey of India. Vol. III. Tibeto-Burman Family. Part I. General Introduction. Specimens of the Tibetan Dialects, the Himalayan Dialects and the North Assam Group.* Calcutta : Superintendent Government Printing Office.
- HARTMANN, J. (1980) *Amharische Grammatik.* Wiesbaden: Franz Steiner.
- HEINE, B. (1997) *Possession.* Cambridge : Cambridge University Press.
- HINDS, J. (1986) *Japanese.* London: Croom Helm.
- 井上 靖 (2012) 『わが母の記』講談社文庫.
- 影山太郎 (編) (2011) 『日英対照 名詞の意味と構文』大修館書店.
- KEEGAN, J.M. (1997) *A Reference Grammar of Mbay.* München: LINCOM Europa.
- KENDALL, M.B. (1976) *Selected Problems in Yavapai Syntax.* New York : Garland.
- 岸本秀樹 (2005) 『統語構造と文法関係』くろしお出版.
- 岸本秀樹・影山太郎 (2011) 「存在と所有の表現」, 影山太郎 (編) 『日英対照 名詞の意味と構文』大修館書店 240-269.
- KUNO, S. (1978) Japanese. In W.P. Lehmann, ed., *Syntactic Typology.* Hassocks, Sussex : Harvester Press, 57-138.
- MAKINO, S. (1968) Japanese “Be”. In J.W.M. Verhaar, ed., *The Verb Be and Its Synonyms Part 2.* Dordrecht: Reidel, 1-19.
- MARTIN, S.E. (1975) *A Reference Grammar of Japanese.* New Haven: Yale University Press.
- NABABAN, P.W.J. (1982) *A Grammar of Toba-Batak.* Canberra: Australian National University.
- NGOM, F. (2003) *Wolof.* München: LINCOM Europa.
- NUCHELMANS, J. (1985) *Kleine Griekse Grammatica.* Weesp : Brand.
- PERCIVAL, W.K. (1981) *A Grammar of the Urbanised Toba-Batak of Medan.* Canberra : Australian National University.
- PLAUT, H. (1904) *Japanische Konversations-Grammatik mit Lesestücke und Gespräche.* Heidelberg : Julius Groos.
- POPPE, N. (1954) *Grammar of Written Mongolian.* Wiesbaden : Harrassowitz.
- RAMBAUD, J.-B. (1903) *La langue wolof.* Paris : Imprimerie Nationale.
- SAMARIN, W.J. (1966) *The Gbeya Language.* Berkeley: University of California Press.
- SCHWARTZ, M.A. and E. SLIJPER (1936) *Grieksche Grammatika.* Groningen : Wolters.
- STASSEN, L. (1985) *Comparison and Universal Grammar.* Oxford : Basil Blackwell.
- STASSEN, L. (2009) *Predicative Possession.* New York : Oxford University Press.
- TAYLOR, J.R. (1996) *Possessives in English.* New York : Oxford University Press.
- 角田太作 (2010) 『世界の言語と日本語 (改訂版)』くろしお出版.

Predicative Possessive Expressions in English and Japanese

Shigeko MATSUFUJI

Laboratory of the English Language
Nippon Veterinary and Life Science University

Abstract

The aims of this paper are the following:

- i) Stassen (2009), which is the first comprehensive attempt to provide a comparative analysis of predicative possessive expressions such as “the man has a car” by using a typological framework of morphosyntactic analysis is surveyed.
- ii) Based on Stassen (2009), the typological properties of English and Japanese are considered.
- iii) The characteristics of predicative possessive expressions in English and Japanese are examined by focusing on (i) possessive constructions and their verbs, (ii) alternation between possessive constructions and existential constructions, and (iii) the lexical meanings of the possessee.

The results reveal the following differences and similarities between English and Japanese:

(1) Differences

- a) English has the ‘have’ possessive. Japanese has the locative possessive as the main type and the topic possessive as the secondary type.
- b) English has the verb *have* in the ‘have’ possessive. Japanese has some verbs such as *aru* ‘to be’ for an inanimate thing, *iru* ‘to be’ for an animate thing in the locative/topic possessive, and *motteiru* ‘to have’ in a transitive construction.
- c) A possessive sentence after the addition of an expression of space or a place expresses the meaning of existence. An existential sentence to which an expression of possession is added expresses the meaning of possession. English can only employ the former, whereas Japanese can employ either.

(2) Similarities

- a) The expression that contains the possessor is ordered before the expression that contains the possessee in a sentence.
- b) The lexical meanings of the possessee can determine the whole meaning of a possessive sentence.

Key words: predicative possession, English, Japanese

Bull. Nippon Vet. Life Sci. Univ., **61**, 60–70, 2012.